

第4回「女性研究者のリーダーシップ」研究会のお誘い

この研究会は、愛知大学研究助成金による研究プロジェクト「女性研究者のリーダーシップ研究」の活動の一環として行われるものです。公開研究会ですので、研究会への参加は大いに歓迎いたしますので、興味のある方はどうぞご遠慮なくお越し下さい。

テーマ： ロボットと女性

と き：2007年2月12日（月） 午後1：30～午後4：30

ところ：京都大学 百周年時計台記念館 会議室 IV



講演

- ① 大武美保子（人工物工学研究センターサービス工学研究部門 助教授）
タイトル「ロボット研究と女性科学者」
- ② 高橋智隆（ロボットクリエイター）
タイトル「女性とロボット」



大武美保子氏は、学生時代から現在に至るまで、一貫して新分野を開拓する研究に従事してきたパイオニア精神豊かな女性です。現在は「神経系の双方向マルチスケールシミュレーション」という情報生命科学与て工学、計算／計算機科学の融合領域の研究課題に取り組んでいるということで、ヒトの脳と心、それが作る社会や文化とヒトとの相互作用のモデルに基づいて、少子高齢化社会の問題解決に貢献する新しいサービスを創造することを目指しているのだそうです。「機械はかたいもの」という既成概念を覆すやわらかい「ゲルロボット」を開発した方です。大武さんは、知的自律システムに関する国際会議が日本で開かれる機会に、「Women in Robotics,」などを組織した積極性に感動します。そこで、世界中の研究者の様々な取り組みを知り、世界の女性ロボット研究者コミュニティが創発的に生まれました。「理工系諸分野において、女性研究者はマイノリティだが、世界に目を向ければ多くの優れたロールモデルを見つけられること、また、研究と生活を調和させている優れた先輩研究者がたくさんいることを知り、こういった方々をネットワークし、新しい研究分野を開拓する研究会を育てていきたいと希望しておられます。

高橋智隆氏は、京都大学内にあるベンチャー・ビジネス・ラボラトリーに所属しておられます。このインキュベーション施設で日々、ロボットクリエイターとして活動中です。ロボットクリエイターは自らが創り出した職業だそうです。こういう冒険は、女性にしかできないかと思っていたのですがそうでもないのですね。氏が製作したロボット「クロイノ」は、米国の雑誌「TIME」で「2004年の最もクールな発明」と評されるなど、日本だけでなく世界的に高い評価を得ているそうです。高橋さんの将来のイメージは「食卓をテリトリーにして暮らしているロボット」だとのこと、最初はあまり役には立たないが、徐々に役立つようになっていくロボットって面白い発想ですね。なんと、ロボットは中性だと思っていたのですが、女性らしいロボットもあるとか！ロボットに見る女性らしさとは何なのか、暮らしのお助けマンとしてのロボットに何が期待できるのか、いろいろと話していただこうと思います。また、ロボットは、持っている人に所有の喜びを与えるような美しいモノでなければならないというのが信念だそうです。詳しくは、お二人のHPをご覧ください。

大武美保子：<http://www.race.u-tokyo.ac.jp/~otake/> <http://www.race.u-tokyo.ac.jp/otakelab/>

高橋智隆：<http://www.robo-garage.com>

このお二人というのは、クレイジーな組み合わせかと思われるかもしれませんが。ロボット業界的でも面白いイベントになるかもしれません。請うご期待！

愛知大学共同研究助成金「女性研究者のリーダーシップ」(代表 坂東昌子)主催
Women in RoboticsとIEEE Japan Council WIE●女性研究者の会：京都 協賛